

(公表用様式)

業務再点検結果報告

組織名	総合食料局総務課	連絡先	03 - 3502 - 7521
所管する業務の概要	総合食料局の所掌事務に関する総合調整、食料の生産及び流通の合理化に関する総合的な政策の企画立案、総合食料局の所掌に係る食料安定供給特別会計の経理など		

1. 基本的な心構え・行動	
<p>・ 現在行っている取組や工夫</p> <p>職員の接遇について、全職員が研修に参加し、接遇マニュアルを踏まえた、相手に失礼のない対応を心がけている。 他の職員の対応など参考になる事例をメモして、今後に心がけるようにしている職員もあった。</p>	<p>・ 点検によって得られた課題とその改善策</p> <p>接遇について、意識は醸成されており、以前より良くなっているが、更にレベルアップし、継続した取組が必要であるので、接遇マニュアルを身近な場所に常備し、常日頃の個々の主体的な気づき、職員相互のチェックによる習慣化を図ることにより、更なる実践を徹底する。本年4月1日以降の転入者を含め、接遇マニュアルを課内及び局内の全職員に配布済。</p> <hr/> <p>農水省ホームページや職員掲示板等を随時活用し、省全体の各種施策を把握するよう努めてはいるが、省全体の施策が十分に把握されているとは言い難いので、9月1日から設けられた職員専用ホームページの政策外交員ページを活用し各施策の把握に努めるよう徹底する。</p> <hr/> <p>業の振興と消費者の利益との関係で、ある事業では、農業者等が直接消費者に販売を行うため、流通関係者において販売量の減少の懸念が示された。このため、担当課を通じ、丁寧に事業の趣旨・内容を説明し、一応の了解を得た。</p>
<p>業の振興と消費者の利益との関係で、ある事業では、農業者等が直接消費者に販売を行うため、流通関係者において販売量の減少の懸念が示された。このため、担当課を通じ、丁寧に事業の趣旨・内容を説明し、一応の了解を得た。</p>	<p>外部への説明に更なる工夫が必要であることから、外部からの問い合わせに対する誤解を防止し、正確に事業内容を伝えるため、統一的な説明・回答を行うための資料を作成する等、円滑な対応について改善を図っていきたい。</p>

2. 政策、業務等の企画立案・推進及び職場環境の整備に関する取組	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
<p>現場の意見の反映に当たって、業界団体や個別企業ヒアリング、農政局等が直接個別企業から受けた要望や意見などの情報収集、事業者向け説明会後のアンケート等を実施しつつ、事業の仕組づくりを行っている。</p>	<p>なお一層の改善を図るため、手引書の作成や研修の実施により農政局等の対応者を育成するとともに、農政局等における相談窓口の設置など体制整備を図ることにより、国民や事業者の要望に対応できる仕組みの整備を図っていきたい。</p>
<p>通知の改正等にあたり、現場職員や関係事業者が容易にその内容を理解し、誤解に基づくミスを防止するため、ポンチ絵や改正のポイント版を作成・添付し、分かり易く説明するよう取り組んでいる。</p>	<p>ポンチ絵や改正のポイント版の作成は、一定の効果が得られていると考えられるので、更なる改良に努める。このことは、担当職員の説明能力の向上につながるものである。</p>
<p>外部から寄せられる疑義情報について、局独自の様式を作成して作業の進行管理を行うなど、担当課及び情報評価課との連絡を密に行っている。</p>	<p>国民・納税者の視点に立てば、一層のコスト低減を図る必要があることから、資料は必要な場合のみカラー刷りとし、コピーは両面コピーを心がける。また、一層の超過勤務の縮減に努める。</p>

3. リスク管理	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
<p>当然のことではあるが、作業の依頼忘れや漏れが発生しないよう、チェック表を作成し進行状況の確認や、ミスの発生を避けるためのダブルチェック体制をとっている。 また、職員間での情報の共有化、ホウレンソウの励行により案件の判断に誤りがないようチェックを実施している。</p>	<p>ヒヤリハット事例を見ていない職員もおり、自分の業務に置き換えた業務の見直しが徹底されていないことから、新たに利用可能となった職員専用ホームページを活用しつつ、ヒヤリハット事例を踏まえて、常日頃から業務改善を意識するようにする。</p>
	<p>リスク管理ポイントの整理や職員間での共有ができていないことから、これまでの経験を踏まえて、リスク（ミス）を生じさせた原因を検証・整理した上で共有し、今後の対応の参考とする。</p>

4. 食の安全に関する取組	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
<p>品質管理手法（HACCP（食品の衛生管理手法）、米国製パン研究所食品安全統合基準）に関する局独自の職員研修を開催した。また、消費・安全局が行っている食品安全に係る科学セミナーへの積極的な参加を呼びかけ、「食の安全」に関する意識を高めるよう取り組んでいる。</p>	<p>部署により研修等の参加人数に偏りが見られるので、全員参加型の研修を行うことにより「食の安全」の意識を高める。</p>
<p>事故米穀の不正規流通をおこした当事者としての意識を絶えず念頭に置いた業務運営を行っている。</p>	<p>食の安全に関する意識が陳腐化しないよう、意識の醸成が必要であるので、折に触れて、「ビジョン・ステートメント」や「事故米穀の不正規流通問題に関する有識者会議報告書」等を個々人の身近な問題として当てはめて考えていく。</p>

5. 円滑な組織運営の実現に関する取組	
・現在行っている取組や工夫	・点検によって得られた課題とその改善策
<p>班・室レベルで業務進捗状況を把握し、特定の職員に負担がかからないよう協力しあっている。また、突発的業務に対しては、応援体制を組むなど業務の平準化に取り組んでいる。</p>	<p>引き続き、職員間の信頼関係を構築し、お互いに助け合っ てカバーできるような職場とするため、挨拶を励行するとともに、問題を担当者任せにするのではなく、上司が業務の進捗状況を確認する。</p>

6. その他の重要な取組

・現在行っている取組や工夫

・職員一同、作業に熱心なあまり、業務の目的を見失うことに留意しつつ、業務運営を行っている。

・特に、新規事業について、職員個人個人の知見を活かし、また、リスク管理を意識した業務遂行を行っている。

・「ビジョン・ステートメント」を手元に携えるようにしている。

・点検によって得られた課題とその改善策

一生懸命作業している業務が、本来目的に的確に適合するよう、上司をはじめ目的の明確化を絶えず念頭に置いた業務運営を行っている。

業務遂行が個人の知見等に頼ったものとなっており、農政局等関係者が一体となった取組に至っていない例が散見され、効率的な業務遂行となっていないという課題がある。このため、組織として対応できるよう、その知見の共有化を図っていくため、説明書、Q&Aを充実させ、省内・農政局等担当者あてのメール、掲示板の活用等による情報提供を行い、また、政策外交員への情報提供により事業を周知する等の検討を行う。

「食品の安全」に係る事件が発生したときに、自分の責任範囲、また、取るべき行動の指標になるのが「ビジョン・ステートメント」であるという意識を持つ必要がある。このことが事件が発生したときの迅速な初動につながる。このため、「ビジョン・ステートメント」は理念であるが、自らの身近な仕事に一つ一つ置き換えることにより具現化し、業務運営を図っていく。また、常日頃のリスク管理に役立てる。